

様式第 9

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
香川県直島町	直 島 町	平成 2 4 ～ 2 8 年度	平成 2 4 ～ 2 8 年度

1 目標の達成状況  
(ごみ処理)

指 標		現状 (割合※1) (平成22年度)	目標 (割合※1) (平成29年度) A	実績 (割合※1) (平成29年度) B	実績/目 標※2
排 出 量	事業系 総排出量	820t	819t ( -0.1%)	734t (-10.5%)	10500%
	1 事業所当たりの排出量	3.8t	3.8t ( 0.0%)	4.1t ( 7.9%)	—
	生活系 総排出量	868t	623t (-28.2%)	997t ( 14.9%)	-50%
	1 人当たりの排出量	263kg/人	197kg/人 (-25.1%)	320kg/人 ( 21.7%)	-90%
合 計 事業系生活系総排出量合計		1,688t	1,442t (-14.6%)	1,731t ( 2.5%)	-20%
再生利用量	直接資源化量	155t ( 9.2%)	139t ( 9.6%)	184t ( 10.6%)	350%
	総資源化量	380t (22.5%)	283t ( 19.6%)	466t ( 26.9%)	-150%
熱回収量	熱回収量 (年間の発電電力量)	— MWh	— MWh	— MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	97t ( 5.7%)	97t ( 6.7%)	22t ( 1.3%)	-440%

※1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合を記載。

※2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合)/(目標の割合-現状の割合)を記載。

(参考)

事業系・生活系の直接搬入の集計方法見直しによる目標達成状況については別紙のとおり

## 2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	1	有料化	直島町	ごみの排出量に応じた手数料負担を検討。	H24～H28 (H24～H28)	H27.4 ごみ手数料変更 定額制から従量制に変更
	2	環境教育・啓発活動	直島町	「環境フェスタ」の開催 ごみ減量化・資源化について 町民の意識啓発に努める。	H24～H28 (H24～H28)	H23 から「環境フェスタ」毎年 開催中。 連合自治体に依頼しごみ0ク リーンデーを毎年開催し、環境 に対する意識の高揚を図る。 H28 直島小学校 4 年生の校外 学習で直島町クリーンセンタ ー見学。
	3	マイバック運動	直島町	マイバック持参運動の推進。	H24～H28 (H24～H28)	毎週水曜日を買い物バッグの 日として広報カレンダーで周 知、直島生協の協力により、組 合員に対して買い物バッグ持 参の方にポイント付加制度を 実施。継続中
	4	生ごみ等減量化	直島町	生ごみ処理機等購入補助制度 の推進。	H24～H28 (H24～H28)	生ごみ処理機、容器、ガーデン シュレッダーの購入費補助事 業を継続中
	5	事業系ごみ減量化指 導	直島町	観光ごみについては、ごみの 持ち帰り運動等の啓発。 事業系ごみの適正処理方法の 指導。	H24～H28 (H24～H28)	直島町観光協会を通じて、観光 客に対してごみの持ち帰り周 知。観光協会HP、チラシに掲 載。継続中。 施設に持込みした際に係員が 指導、継続中。

処理体制の構築、変更に関するもの	2 1	生活系ごみの処理体制	直島町	分別区分を維持しながら、処理施設整備に伴う受入れ先の充実を図る。	H24～H28 (H24～H28)	施設整備にあわせ、ごみの収集体制の改善を行う。分別は継続中。H27にごみの分け方出し方保存版を作成、全戸配布した。
		事業系ごみの処理体制	直島町	多量に排出する事業者がある場合は、減量化に関する指導を行う。	H24～H28 (H24～H28)	施設に搬入した際に排出事業所の個別指導を実施。 H28に事業系ごみの分け方出し方保存版を作成、事業者に送付。
		施設整備	直島町	焼却施設の整備及びリサイクル施設とストックヤードを整備し資源化を推進。	H24～H28 (H24～H28)	H25,26年度でリサイクル施設及びストックヤード整備 H26,27年度で焼却施設整備
処理施設の整備に関するもの	1	リサイクル施設	直島町	リサイクル施設の整備 処理能力：1t/日 ストックヤード整備 約492㎡	H25～H26 (H25～H26)	リサイクル施設、ストックヤード整備はH26年度に計画どおり完成し、H27年度から供用開始した。
	2	焼却施設	直島町	焼却施設の整備 処理能力：約6t/日	H25～H27 (H25～H27)	焼却施設整備はH27年度に計画どおり完成し、H28年度から供用開始した。
施設整備に係る計画支援に関するもの	3 1	1の計画支援	直島町	生活環境影響調査、地質調査、施設基本計画設計等、発注仕様書等作成、造成設計等。	H24 (H24)	概要に記載した事業について実施した。
	3 2	2の計画支援	直島町	旧焼却施設解体工事設計、生活環境影響調査、施設基本計画設計、発注仕様書等作成。	H24～H25 (H24～H25)	概要に記載した事業について実施した。

その他	4 1	特別管理一般廃棄物の適正処理	直島町	感染性一般廃棄物の適正な処理を推進するため、医療機関への周知徹底。	H24～H28 (H24～H28)	町内の医療機関は適正な処理が行われている。
	4 2	適正処理困難物の処理	直島町	事業者自らの適正な回収を推進、排出者に対して適切な情報の提供。	H24～H28 (H24～H28)	H27 に収集運搬業許可業者及び直接持ち込み事業者に対して文書で周知。個人についてはごみの分け方と出し方の保存版を H28.3 に全戸配布した。
	4 3	再生利用品の需要拡大	直島町	町庁舎や公共施設等でグリーン購入法に基づく商品の使用を推進。	H24～H28 (H24～H28)	町庁舎や公共施設等で四半期ごとにグリーン購入報告書を提出してもらうことにより、職員等の意識を高める。継続中
	4 4	不法投棄対策	直島町	職員による不法投棄パトロールの充実、町民に対しての啓発。	H24～H28 (H24～H28)	毎月不定期ではあるが、職員による不法投棄パトロールを実施、継続中。ごみ0クリーンデーを毎年開催し、環境に対する意識の高揚を図る。継続中
	4 5	災害時の廃棄物処理	直島町	町地域防災計画に基づき、廃棄物の適正処理を行うため、災害廃棄物処理計画の策定。	H24～H28 (H24～H28)	災害廃棄物処理計画を現在作成中。 (平成30年度策定予定)

### 3 目標の達成状況に関する評価

一般廃棄物等の処理の状況については、平成29年度目標に向けて取り組んできました。人口についてはほぼ横ばいの状況ではありますが、平成22年度から瀬戸内国際芸術祭が3年毎に開催され、当町も開催地となっていることから観光客の増加や民宿、飲食店の増（民宿は30件→60件、飲食店は34件→44件。民宿、飲食店のごみは、少量であれば生活系ごみステーションに出すことができる）、また町内の景観を保つため、道路脇及び遊休地の草木伐採等が頻繁に行われるなど、ごみ排出量の目標を達成することができませんでした。また、別紙参考ではありますが施設整備に伴い、平成28年度から事業系・生活系の直接搬入の集計方法を見直したことで、数値にも変化が見られました。リサイクル率については、新焼却施設の灰をリサイクルできたことに併せ、町全体として意識の高揚が図られ約27%と総資源化量が増えたものと考えられます。

廃棄物処理施設整備については、計画支援を含め予定した事業期間内で整備が完了できました。

また、施設整備に併せてごみ処理方法及びごみ処理手数料の変更、ごみ収集体制の改善も行い、ごみの排出抑制を全町的、継続的に実効性のあるよう推進を図りました。

発生抑制に関するものについては、継続的に推進しながら日常的に広報、啓発活動に努め環境に対する意識の高揚を図りました。

今後は、平成30年度に一般廃棄物処理計画を見直す計画としており、より現実的な目標・成果を求められるよう実施していきたいと考えております。

別紙事業系・生活系の直接搬入の集計方法見直しによる目標達成状況（参考）

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
香川県直島町	直島町	平成24～28年度	平成24～28年度

1 目標の達成状況  
（ごみ処理）

指 標		現状（割合※1） （平成22年度）	目標（割合※1） （平成29年度） A	実績（割合※1） （平成29年度） B	実績/目 標※2
排 出 量	事業系 総排出量	820t	819t ( -0.1%)	498t (-39.3%)	39300%
	1 事業所当たりの排出量	3.8t	3.8t ( 0.0%)	2.8t (-26.3%)	—
	生活系 総排出量	868t	623t (-28.2%)	1,233t ( 42.1%)	-150%
	1 人当たりの排出量	263kg/人	197kg/人 (-25.1%)	398kg/人 ( 51.3%)	-200%
合 計 事業系生活系総排出量合計		1,688t	1,442t (-14.6%)	1,731t ( 2.5%)	-20%
再生利用量	直接資源化量	155t ( 9.2%)	139t ( 9.6%)	184t ( 10.6%)	350%
	総資源化量	380t (22.5%)	283t ( 19.6%)	466t ( 26.9%)	-150%
熱回収量	熱回収量（年間の発電電力量）	— MWh	— MWh	— MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	97t ( 5.7%)	97t ( 6.7%)	22t ( 1.3%)	-440%

※1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合を記載。

※2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、（実績の割合-現状の割合）/（目標の割合-現状の割合）を記載。

(都道府県知事の所見：目標達成状況報告書)

排出量については、特に生活系ごみの総排出量が増加し、目標値を達成できなかったものの、再生利用量、最終処分量については、実績値が目標値を達成できていると評価される。

廃棄物処理施設の整備については、計画支援を含め、計画に沿って事業期間内に整備を完了した。関係法令等を遵守し、施設の適切な維持管理・運営に努められたい。

今後は、現在の施策を継続して廃棄物の発生抑制に取り組むとともに、整備した施設を活用し、廃棄物の再生利用及び適正処理を推進していただきたい。